

平成 29 年度第 5 回清瀬市健康増進計画策定委員会

■ 議事要旨 ■

日 時 : 平成 29 年 9 月 28 日(木) 午後 1 時 20 分～2 時 30 分

場 所 : 健康センター 第 1 会議室

出欠席

※敬称略

		所 属
出席	◎ 藤井 仁	国立保健医療科学院政策技術評価研究部主任研究官
出席	○ 岩本 珠美	十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学科教授
出席	佐々木秀次	清瀬市医師会
出席	松村 猛	東京都清瀬市歯科医師会 会長
出席	阿久津たか子	清瀬市薬剤師会
出席	田島 通夫	清瀬市健康づくり推進員連絡協議会
出席	村田 政司	清瀬市小中学校校長会
出席	大久保仁恵	多摩小平保健所 所長
出席	宮川 満喜	清瀬地域活動栄養士会
出席	寺本 雅彦	公募委員
出席	遠藤 養子	公募委員

◎委員長 ○副委員長

1. 開会

事務局 第 5 回清瀬市健康増進計画策定委員会を開会します。委員長の藤井先生がまだいらしていませんが、時間になりましたので始めさせていただきます。

－ 資料の確認 －

2. 第 4 回策定委員会の議事録について

事務局 第 4 回策定委員会の議事録について、修正などありますでしょうか。なければ、ホームページで公開させていただきます。

3. 第 2 次清瀬市健康増進計画素案について

① 第1章「計画の策定にあたって」・第2章「清瀬市民の健康をめぐる状況」

事務局 第2次清瀬市健康増進計画素案の説明をします。本計画書は100ページ前後になる予定です。1ページには、計画策定の趣旨を記載しています。本計画は、『目標年度である平成35年度に、市民一人ひとりが、自身の健康づくり、生涯にわたる健全な食生活を推進できるよう、「だれもが健幸で笑顔あふれるまちの実現」を目指して』います。7ページは、前回の委員会では空欄となっていた部分で、新たに計画の推進、評価という項目を設けています。計画全体の評価は6年後の改定時に実施しますが、毎年計画の推進をはかるために各種事業の見直しを行い、計画の効果的な推進に努めます。9ページには、長期総合計画のデータを使用した清瀬市の人口推移と将来推計を記載しています。12～17ページには、死亡に関する各種データを記載し、18ページには本計画最大の目標である健康寿命に関係のあるものを掲載しています。また今回、計画書の随所にコラム欄を設け、各担当の者が市民のみなさんにお知らせしたいことについて掲載しています。19ページの65歳健康寿命のグラフですが、前回の策定委員会で質問のあった平成23年度に男女の数値が逆転していることについては、データの記載ミスでした。今回の資料で正しいデータに修正しています。20ページに介護保険の認定者数推移、23ページからは各種健診(検診)の受診状況について掲載しています。28ページは医療費の動向について掲載していますが、市で把握できる医療費は国民健康保険のデータですので、こちらに掲載しているデータは国民健康保険の数値です。

－ 事務局説明中に委員長出席 －

副委員長 今ご説明いただきました第1章、第2章についてご意見ご質問がありましたらお願いします。第1章は策定の趣旨等の内容で、第2章は清瀬市の健康をめぐる現状を東京都、国と比較したデータになっています。

委員 合計特殊出生率について、平成27年度は高くなったと出ています。私は、転入者に若い夫婦が多いように感じるのですが、他動的な理由で出生率が高くなったのではないかと思うのですが、転入者が増えた結果なのか、それとも市の施策として何らかの活動がなされた結果なのか知りたいです。

事務局 これは若い夫婦が転入されて、清瀬で子どもを生んでいることを反映していると思われる。

委員 7ページに本計画の期間について「4年短縮し」となっていますが、これは他の計画と足並みを揃えたためであることは以前説明を受けましたが、初めて読む人は何故6年なのか疑問に思うと感じるので、理由を書いた方がいいのではないのでしょうか。

事務局 ご意見を踏まえまして、5 ページの計画の期間についての記載に、6 年に設定した趣旨について何らかの説明を加えたいと思います。

② 第 3 章「計画の考え方と具体的取り組み」

(Ⅱ 食育推進計画、Ⅲ 健康を支え守るための社会環境整備を除く)

事務局 第 3 章は書き方が比較的統一されていますので、書き方について説明します。各論ともにまず「(1)現状と課題」、「(2)第一次健康増進計画の評価」が記載され、次に「(3)望ましい姿」という構成になっています。この「望ましい姿」は、東京都の健康推進プラン 21 に倣った記載で、主語は市民です。次に「(4)施策の方向性」では、清瀬市が今後推進していく内容、施策の方向性について、「(5)市が行う主な取り組み」で、市の取り組みの具体的な内容について記載しています。「(6)市民・地域・関係団体等が行う取り組み」は、市民や関係団体の方で取り組んでいただきたいことを記載しています。「(7)課題に対する目標と成果指標」については、前計画とは異なって今回は具体的な目標数値を定めて、市民に 6 年後の数値を示そうと考えています。目標値については、現在検討中で、次回策定委員会で示したいと考えています。また、「(5)市が行う主な取り組み」については、健診や講演会、教室、普及啓発、保健指導等が中心となっているため、各取り組みの柱が同じような内容となっていますが、各論毎に内容は異なっているということをご了承ください。

委員長 計画の考え方と具体的な取り組みの部分で、ご意見をお願いします。

委員 糖尿病についてですが、43 ページに市民が行うこととして「糖尿病やメタボリックシンドロームの病態を理解し、生活習慣を点検し、適切な食生活や運動習慣を身につけ生活習慣病を予防します。」とあります。図表 35 に HbA1c が 5.6 から 6.5 未満の人、つまり糖尿病についてこれから気をつけなくてはいけない人が多くいることが示されていますが、HbA1c が 6.5 を過ぎると先生方は治療や薬について細かくお話してくれるのですが、それ以下の数値の間は様子をみましょうとか、3 か月に 1 度、1 年に 1 度、あるいは次回の健診の時にみましょうというケースが多いです。そうすると、HbA1c が 5.6～6.4 までの状態がずっと続いている人は日常生活でどうしたらいいのかわからないという話をよく聞きます。HbA1c だけでなく、食後血糖値についても取り上げていただけたらと常々思っています。

委員長 医療で考える血糖値と予防で考える血糖値の捉え方の違いについては以前から指摘されています。医療において、血糖値が要治療というところまでいっていない場合の取り扱いについては温度差があるという話もあります。この層に対する手立ての 1 つとして特定保健指導があると考えています。来年から特定保健指導

第3期に入って、制度的な内容が変わってきますので、そういったことを周知する努力が必要だと私も感じています。

委員

がん検診についてですが、最近新聞で、国で定められている仕方で検診が実施されているかどうかということが問題になっているという記事を読みました。辺境地などの話かもしれないのですが、本計画において、市で行う検診がきちんと行われているかの検証や、もし足りない部分があればそれをきちんとしたかたちにする施策が盛り込まれるのかどうか気になりました。

委員長

がん検診に関してはまず予算の問題があるのですが、先進的な取り組みはいくつかの自治体でなされています。例えば標準的な健診・保健指導プログラム[改訂版]によれば、特定健診とがん検診を同時実施するように推奨していて、八王子市では乳幼児健診に来た母親が乳がん検診を受けていなかった場合は受診勧奨をするなど、色々な取り組みの先進事例がありますので、そういったことを参考に取り入れられるものは取り入れていけたらと考えています。

副委員長

36 ページのコラムのところに少し書いてあります。

委員

コラムという言葉からは、私は評論的なものや何かのテーマに関しての文章という印象を持っていたのですが、本計画書のコラムは語彙説明の場合もあれば、現状の報告の場合もあります。また、市民に「おこなってみましょう」と呼びかけるインフォメーションの場合もあって、コラムという名前で括るのはどうなのだろうという感想を持ちました。

委員長

草稿段階でまだ不十分なところがありますので、率直なご意見をできるだけ反映したいと思います。読む側が、これは豆知識なのか病気の解説なのか、何を伝えるコラムなのかははっきりわかるかたちに統一していきたいと思います。

委員

コラムと書かなくてもいいと思います。コラムは書く人の意見が入っているイメージがあります。何も書かないか、別の言葉や※などの記号にする方法もあると思います。

委員長

コラムの書き方については、検討させていただきます。

委員

51 ページの朝食について、課題の捉え方が前回にくらべてあいまいな記述になっているように思いました。今回は『それ以外の年齢層では「週5日以上」は年齢層が低いほど、割合が低くなっています。』と、20歳以上の年齢層では若い方の欠食率が高いという書き方になっています。第3回委員会では、アンケート結果について、朝食欠食者の割合が20歳から39歳の若い男性で前回のアンケートの値が2008年で12.7%だったのが今回のアンケートでは36.7%で3倍になっていると事務局から説明がありました。第4回委員会でも朝食の欠食についての問題では20歳から30歳代の男性の欠食率が目立つということが1番に記述されていました。今回そういった重要な情報を抜いて、男女合わせた数字が示されているので、問題が見えなくなってしまうように感じるのですが、事実を捉えているのにその情報を抜いてしまった理由は何かあるのでしょうか。

事務局 食育につきましては、この後の議題③「Ⅱ 食育推進計画」・「Ⅲ 健康を支え守るための社会環境整備」において、説明させていただきます。

委員長 議題となっているページ数を明確に伝えるべきでした。申し訳ありません。それでは、ご意見もあったことですので、③「Ⅱ 食育推進計画」・「Ⅲ 健康を支え守るための社会環境整備」についての説明をしていただいた上で、②と③合わせてもう一度ご質問をお願いしたいと思います。

③ 「Ⅱ 食育推進計画」・「Ⅲ 健康を支え守るための社会環境整備」

事務局 先に、ご質問についてですが、確かに朝食欠食者の割合が 20～39 歳の男性で増えているのですが、今回はこの章で前期計画の評価にはあまり触れずに、現状を分析した結果を現状と課題として書いてあるので、全体的であいまいな表現になってしまいました。ご意見いただいた内容について検討させていただきます。それでは、食育推進計画について説明します。国と東京都は食育推進基本計画を 5 年毎に改定していて、1 次計画では周知、2 次計画では実践、3 次計画では協働をメインに取り上げています。清瀬市では今回初めて食育推進計画を策定するので、周知、実践についてメインに取り組んでいきたいと考えています。食育推進計画策定調整会議をたち上げて、関係 7 課と協議しています。主に市としては普及・啓発を中心に計画を組み立てています。58 ページの「(3)望ましい姿」に市民が取り組む内容について記載しています。1 つ目に正しい食習慣の実践、2 つ目に健康を意識した食習慣、3 つ目に共食で豊かな食体験をあげました。「(4)施策の方向性」には市が取り組む内容を記載しています。1 つ目には朝食を食べることの普及啓発。2 つ目には家族や仲間と食事を一緒にすることの普及啓発。3 つ目には実践しやすい情報を周知していくこと。4 つ目に家庭での食育に関する理解と取り組みが進むような普及啓発をしていくこと。5 つ目に地産地消の取り組みをあげました。59 ページにライフステージ別行動目標として、乳幼児期は食べる意欲を育てる。学齢期は食の知識と体験を重ね、正しい食行動を身につける。青年期・成人期は食生活を確立し、実践すると共に、次世代に伝える。高齢期は生活への意欲を維持し、食を楽しむという項目に分けて、行動目標をたてました。「(5)市が行う主な取り組み」では、乳幼児、児童・生徒、成人、高齢者の年齢層と、地産地消、情報発信等の取り組みの全般にかかるものに分け市の取り組み内容と所管課について記載しています。「(7)課題に対する目標と成果指標」につきましては、次回の策定委員会でご意見をいただきたいと思っています。続いて、

社会環境の整備について説明します。89 ページでは主に健康づくり推進員やボランティア、協力団体等、ソフト面のことを中心に記載しています。アンケート調査報告書によりますと、地域の活動に「参加している」割合が最も高いのは趣味関係のグループで、ボランティアのグループは最も低くなっています。地域のつながりが豊かになるほど、市民の健康状態が良いということもわかっています。93 ページの「(3)施策の方向性」には、健康に関する情報発信、かかりつけ医等の普及啓発、地域での健康づくりの推進、地域における健康づくりの担い手の育成と地域団体の活動支援について記載しています。「(6)課題に対する目標と成果指標」ですが、これは前回策定委員会の中で生活指標について具体的目標を数値化して入れた方がいいのではないかとご意見をいただきましたので、それを踏まえて、次回の第6回策定委員会の中で示したいと思います。

委員長 先ほど途中になった部分もありましたので、②と③の内容を合わせてご意見をいただければと思います

委員 53 ページに「栄養バランスのとれた食事について」と書いてあり、主食・主菜・副菜が揃っていれば栄養バランスがとれているというのは、表現としてはわかるのですが、主食とはどういうものか、主菜はどちらかというたんぱく質系のものを多く摂りましょうなど、どこかに説明されているとよりわかりやすいと思いました。

副委員長 栄養バランスと一言で言うのは簡単なことなのですが、実際にそれを伝えるのは難しいので、主食・主菜・副菜という伝え方が一番わかりやすいのではないかと思ったのですが、やはり最近若い人の中では主食や主菜といっても何なのかわからない人もいますので、今いただきましたご意見を参考に検討していきたいと思っています。

委員 野菜を1日に350gですが、朝・昼・晩トータルしたら350gになるというのをわかりますか。

副委員長 わかりません。

委員 そうなると、文章で野菜を1日350gとあっても実際に理解できないのではないかと思います。資料などで、例えば葉菜だったらこれくらい、根菜だったらこれくらいと目に訴える方法を加えていただくとより理解できて、具体的に実行できるのではないかという気がします。

委員長 何皿という目安と野菜摂取量とがある程度比例しているという研究結果が最近ありましたので、何皿表示で350gを説明することは1つの方法だと思います。栄養バランスガイドではサービングという単位があります。ただ栄養バランスガイドまで入れ込むと丸1ページ以上とってしまいそうなので、もう少し短めで、わかりやすいかたちで350gを表現できないか検討させていただきたいと思います。

- 副委員長 一般的なサラダ 1 杯だとどれくらいの野菜の量になるか、小鉢のおひたしだったらどれくらいの量になるか、という記載かなと思います。
- 委員 食育推進計画なので、あまり細かいことは求められないと思いますが、より理解できるようなかたちにしていただきたいと思います。
- 副委員長 検討させていただきます。ありがとうございます。
- 委員 40 ページの糖尿病とメタボリックシンドロームの現状と課題の中で、糖尿病の有所見者が 55.3%いるとありますが、半分以上が病気なのかと驚くので、これは受診者の中のデータだと思いますので、書き方をもう少し考えた方がよいような気がします。もう一つは、特定健康診査受診率は、70 歳代は 7 割、40 歳代は 3 割ということですが、この中に職場健診を受けている人は入っているのでしょうか。またそれについての説明は必要ではないでしょうか。
- 事務局 これは国民健康保険加入者のみを対象とした数値となっています。
- 委員長 職域健診の受診者が抜けていることは、このようなデータに慣れている人間にはわかるのですが、確かに記載が必要だと思います。
- 委員 40 ページの文章に少し説明を付け加えれば良いと思います。
- 事務局 先ほどから用語のことについてご意見をいただいています。コラムのことと合わせて整理し直さなければならぬと考えています。また、今はまだ白紙になっていますが最後の 99 ページに用語解説を掲載できればと考えています。
- 委員 用語に関してですが、59 ページのライフステージ別行動目標では乳幼児期、学齢期、青年期・成人期という分け方で、市が行う取り組みでは乳幼児、児童・生徒という括りになっていて、成果指標では、また乳幼児期、学齢期、青年期・成人期というかたちで分かれています。理由があつて異なる括りが示されているのかもしれませんが、どこがどこにあたるのかという部分の整合性がわかりにくく、気になりました。
- 委員長 ライフステージから数値目標までの整理の仕方は、ご意見いただいたことを踏まえて再度検討させていただければと思います。
- 委員 委員としてこの計画を読んでいてかなりのボリュームだと感じるのですが、これはどういったかたちで市民に公表されるのでしょうか。
- 事務局 今後の計画策定スケジュールとして、まず次回の策定委員会で完成に近いものを中間のまとめとして用意します。12 月にパブリックコメントというかたちで、中間のまとめを約 3 週間、ホームページ上や冊子にしたものを健康センター等に配置して市民から意見をいただく場を設けます。その後、それらの意見を集約したものを 1 月の策定委員会で審議し、2 月に市長に答申。その後議会への報告を経て、ホームページ上での公開、計画を印刷製本したものを各図書館等に配布するというかたちで市民への公開になる予定です。
- 委員 これだけのものを理解できる方はそんなに多くはないと思うのですが、大事なところをまとめたものをつくれればわかりやすいかなという気がします。

- 委員長** 東京都の計画では見開きのパンフレットを作っていました。検討させてください。
- 委員** この計画は行政のものなので、当然市長や議会あてにつくらなければいけないということは理解していますが、市民がこれを全部読むというのは難しいのではないかと思います。市民向けの何かをつくれなにかと思いました。
- 委員長** 国が規定している項目すべてを含めなければいけないので、この厚さになってしまおうのですが、ご意見はまったくその通りだと思います。
- 事務局** 健康増進計画に限らず、行政計画は市民が1から10まで読み取ることは難しいと我々も考えています。最終的に6年後に何をどこまでどのようにするのが一番のポイントだと考えていますので、各取り組みで掲げる目標数値を一覧としてすべて1つのページで読めるようなページを資料編に設けようと考えています。その一覧で例えばがん検診など、読む方が興味を持った項目について、この数字はどのような取り組みで達成を目指すのかを各論で読み取っていただくということができるようになりたいと考えています。その辺りのページ構成やポイントのわかりやすい表現などを工夫したいと思います。
- 委員** 私はインターネットを見ませんが、市報は全部読みます。ですから、市報でコラム的に色々な内容をピックアップして、少しずつ計画を発信したらどうでしょうか。目に付くところに情報を出さないと、「計画をつくりました」で終わってしまう懸念があります。コラム的な記事で興味を持ってもらって、詳しいことはこちらにありますと案内するなど、周知をよろしく願います。
- 委員長** 市報に健康増進についての記事は載っているのですか。
- 事務局** 健康に関しては市報で毎年特集号を組んでいますので、紙面をかりてぜひ周知に努めたいと思います。また先ほどご意見にありました市民に向けたより理解しやすい方法については、他の計画でも同様に課題となっています。ご意見を胸に刻んで計画の策定に向かっていきたいと思っています。これからも様々なご意見をいただければと思います。ありがとうございました。

4. その他

- 事務局** 次回第6回健康増進計画策定委員会は、平成29年10月30日(月)18時30分より健康センターにて開催します。資料は1週間前に送らせていただきます。
- 委員** 資料を1週間前に送っていただくのは非常にありがたいのですが、これだけ分厚いと理解に至りません。1日でも2日でも早くいただければもっと読み込めると常にかけています。最終段階に入っていますので、じっくり読みたいというのが私の気持ちです。ご理解ください。
- 委員** なかなか難しいのでしょうか、出来次第よろしく願います。この前は雨の中を届けていただいて感心、感謝しました。

事務局

1日でも早く、正確な資料を送ることができますよう努力したいと思います。

委員長

第5回清瀬市健康増進計画策定委員会を閉会します。